



## 2 「学習記録」を習慣づける

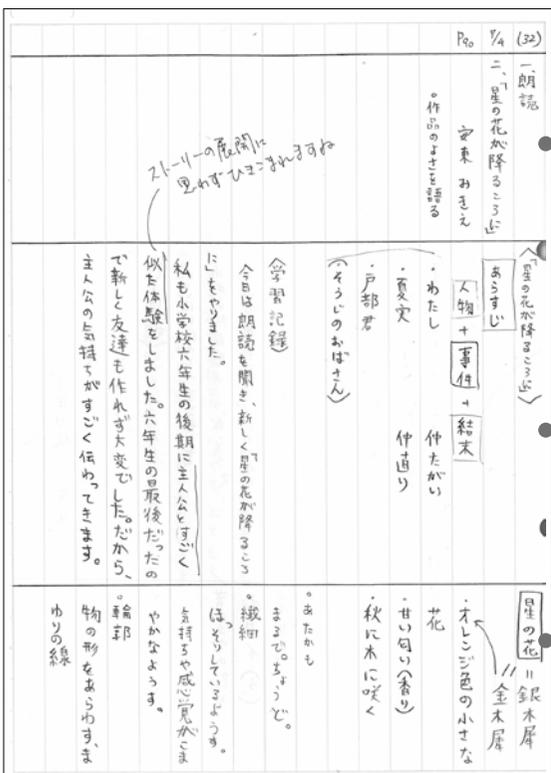
授業の終わり五分ぐらいで、必ず「学習記録」を書く時間を取っています。今日の授業で学んだ内容（客観的な記録）、新しく知ったことや感想（主観的な記録）をノートに五行程度でまとめさせます。学習

記録をつけることで、授業で何を学んだのかを振り返らせることができますし、それが蓄積されていけば、生徒たちの国語の力になっていきます。

最初のうちは、毎時間ノートを集めて、学習記録をチェックするようにしています。そして、きちんと記録できている生徒の

### 「星の花が降るころに」(1年)を学習したときのノート

ノートは3段に分けるように指導している。



---上段は授業内容。

---中段は板書と学習記録。学習記録は、授業の終わりに、5行程度でまとめさせる。

---下段は辞書で調べた言葉やメモ。



▲学期ごとに、ノートやプリントを綴じて冊子にする。その際、目次や中扉も入れて整理する。

## 3 辞書で言葉の世界を広げる

をすることはできませんが、ノートを見てコメントを書くことで、全員と会話することが出来ます。ですから、新学期に入ったばかりの頃は、一人一人の生徒を知るために、ノートをきちんと見るように心がけています。

また、ノートや授業の中で配布したプリント類は、最終的に学期ごとまとめて、表紙・目次・あとがきを入れ、綴じて冊子にします。このように、学習記録をきちんと整理して残すことで、一年間の学習を振り返らせることができ、「国語の時間にこれだけのことを学んだのだ」という自覚をもたせることができます。各学期末に冊子を作るので、ノートだけでなく、プリント類もきちんとファイルに保管しておくよう授業びらきの際に、生徒へ伝えるようになっています。

私は、生徒の語彙を広げるために、授業の中で辞書を多用します。そのため、「自分の辞書について知ろう」と題し、まず自分が持っている辞書の出版社名・発行年などを調べさせます。そして、「辞書によって、説明のしかたや扱う言葉の数は、さまざま

なんですよ」と話し、いくつかの言葉について意味を調べさせます。例えば「右」という言葉を辞書で引いてみると……

みぎ【右】①東に向かって南のほう。

(小学館『新選国語辞典』第七版)

みぎ【右】①相対的な位置の一つ。東を向

いた時、南の方、また、この辞典を開いて読む時、偶数ページのある側を言う。

(岩波書店『岩波国語辞典』第五版)

みぎ【右】①アナログ時計の文字盤に向かった時に、一時から五時までの表示がある側。

(三省堂『新明解国語辞典』第七版)

このように、辞書によって説明のしかたが異なることを話し、「右」以外にも辞書によっていろいろな意味や用例が出そうな言葉を生徒に引かせます。辞書の使い方については、教科書一年P22・23にも詳しく紹介されていますので、こちらも合わせて確認させるとよいでしょう。

それから、私は、辞書が引いたら生徒たちに拳手をさせるようにしています。そして早く引けた順に「一、二、三」と、手を拳

ノートをコピーして、他の生徒に紹介しています。そうやって、早い時期から丁寧に指導していき、学習記録をしっかり習慣づけるようにするのです。

私は、「子どものノートを見ることは、その子自身を知ること」だと考えています。限られた授業時間では、すべての生徒と話



げた生徒と目を合わせながら教えていきます。そうすることで、「今日は早く引くぞ」という意識が生まれ、教室が盛り上がります。私自身も、授業中にたくさん生徒と目を合わせることができると、楽しい気持ちになります。

辞書を引く習慣というのも、やはり早い時期から指導しないと、なかなか身につけません。学習記録のしかたとともに、授業びらきで、しっかりと教えていかなければならないことの一つだと思っています。

(談)